

# 【听译】童游



华咲

花开

望み望まれて此処に  
爱でたきものは此れに有  
り

梦と现と交えては  
幻の国  
幻想郷に、遊ぶがいい

此处有求有应  
此处有喜爱之物

梦境与现世交汇时  
可于幻想乡玩

---

空を征く者がいる  
怪异を祓う者がいる  
其れ等を望む子等がいる  
御伽噺を耳にして  
思い巡らす其れ以上に  
生きる幻想が其処に居る

有空中飞的  
有驱散怪异的  
亦有期望她们的  
耳中听闻怪诞轶事  
心中所思更为怪异  
幻想中的生活正在彼处

---

何时の世も  
爱でたきものは  
往来の  
童游の  
中にこそ有れ

凡世间  
喜爱之物  
往来的  
孩童游戏  
亦正在此处

---

华咲  
真优雅、舞うたれば  
华の都は、此れに有り  
梦と现と交えては  
今日も変わりなく町角に

花开  
当真优雅地翩翩起舞  
花都亦在此处  
梦境与现世交汇时  
今日一如既往街头巷角

---

华散

口伝伝承（昔话）を祀れば

爱でたきものは此れに有り

梦と现と交えては

幻の国  
幻想郷に、遊ぶがいい

花落

祭念起过往轶事

此处有喜爱之物

梦境与现世交汇时  
可于幻想乡玩

空中踊る者がいる

怪异を使役う者がいる

其れ等を真似る子等がいる

拙いものと思えども

その手に握る其れこそが  
何时か幻想を生んでいく

有空中起舞的

有使役怪异的

亦有模仿她们的

回忆起旧时糗事

手中紧握的正是  
何时幻想生于其中

さあ咏え

舞い踊りては

华やかに

己が描く

童游  
命名決闘を

来唱吧

随歌起舞的

繁花烂漫

自己描绘

孩童游戏  
命名決闘

彩风

真优雅、舞うたれば

風の神も、爱でたからむ

彩风

当真优雅地翩翩起舞

风之神灵亦必欣然

梦と现と交えては  
明日の来る事を疑わず

梦境与现世交汇时  
明日之事毫不存疑

微风

<sup>梦</sup>  
名を其処に、込め入れば  
道往く者も、爱でたから  
む

梦と现と交えては  
<sup>幻の国</sup>  
幻想郷に、遊ぶがいい

微风

<sup>梦</sup>  
以己之名 混于彼处  
往来之人亦必欣然

梦境与现世交汇时  
可于幻想乡玩

伝説の梦の国に  
生きて、生きて、生きて  
明日行く町角は片隅  
其処彼処に  
耳を澄ませば  
その息遣いを聞く  
空も、地の底も  
星の水际も全てに  
移ろい逝く季节の  
その狭間でさえも  
望み望まれて其処に有り

传说中梦境的国度  
但愿生于其中  
明日所往街头巷尾  
于之此处彼处  
如若清耳静心  
倾听那气息  
空中亦，地底亦  
繁星的海岸亦全部  
交替过往的季节  
就算其中的间隙  
亦在此处有求有应

华咲

まこと优雅、舞うたれば  
华の都は、此れに有り

花开

当真优雅地翩翩起舞  
花之都亦在此处

梦と现と交えては  
人も妖も诸共に

梦境与现世交汇时  
人亦，妖亦，其余亦

---

华散  
そして日も、暮れぬれば  
跃り疲れて家路なり  
梦と现と交えては  
幻の国  
幻想郷 に、遊ぶがいい

花落  
随之日亦落时  
舞尽成归路  
梦境与现世交汇时  
可于幻想乡玩

---

华咲  
そして又も、町角に  
童游の変わらずに  
梦と现と交えては  
幻の国  
幻想郷 は此れに有り

花开  
随之又在巷角  
往日无异的孩童游戏  
梦境与现世交汇时  
此处有幻想乡

---

华咲  
望み望まれて此处に  
爱でたきものは此れに有  
り  
梦と现と交えては  
幻の国  
幻想郷 に、遊ぶがいい

花开  
此处有求有应  
此处有喜爱之物  
  
梦境与现世交汇时  
可于幻想乡玩

上面这个原文写法用了很多 当て字，表意而不表音，如果想对着唱的话可以参考下面这个版本：

华咲

望み望まれてここに  
めでたきものはこれにあり  
夢と現（うつつ）と交えては  
幻の国に、遊ぶがいい

空を征（ゆ）くものがある  
怪異を祓うものがある  
それらを望む子らがいる  
御伽噺（おとぎばなし）を耳にして  
思い巡（めぐ）らす其れ以上に  
生きる幻想が其処に居る

いつの世も  
めでたきものは  
往来の  
童游（わらべあそび）の  
なかにこそあれ

华咲

まこと优雅、舞うたれば  
华の都は、これにあり  
夢と現と交えては  
今日も変わりなく町角に

华散

昔話（むかしばなし）を祀（まつ）れば  
めでたきものはこれにあり

夢と現と交えては  
幻の国に、遊ぶがいい

空で踊るものがある  
怪異を使役うものがある  
それらを真似る子らがいる  
拙（つたな）いものと思えども  
その手に握る其れこそが  
いつか幻想を生んでいく

さあ咏え  
舞い踊りては  
华やかに  
己が描く  
童游（わらべあそび）を

彩风（さやかぜ）  
まこと优雅、舞うたれば  
風の神も、めでたからむ  
夢と現と交えては  
明日の来る事を疑わず

微风（そのかぜ）  
夢（ゆめ）をそこに、込め入れば  
道往く者も、めでたからむ  
夢と現と交えては  
幻の国に、遊ぶがいい

伝説の夢の国に  
生きて、生きて、生きて  
明日行く町角は片隅  
そこかしこに  
耳を澄ませば  
その息遣いを聞く  
空も、地の底も  
星の水际（みぎわ）も全てに  
移ろい逝く季節の  
その狭间（はざま）でさえも  
望み望まれてそこにあり

华咲  
まこと优雅、舞うたれば  
华の都は、これにあり  
夢と現と交えては  
人も妖（あやかし）も诸共（もろとも）に

华散  
そして日も、暮れぬれば  
跃り疲れて家路なり  
夢と現と交えては  
幻の国に、遊ぶがいい

华咲  
そしてまたも、町角に  
童游（わらべあそび）の変わらずに  
夢と現と交えては



幻の国はこれにあり

华咲

望み望まれてここに

めでたきものはこれにあり

夢と現と交えては

幻の国に、遊ぶがいい